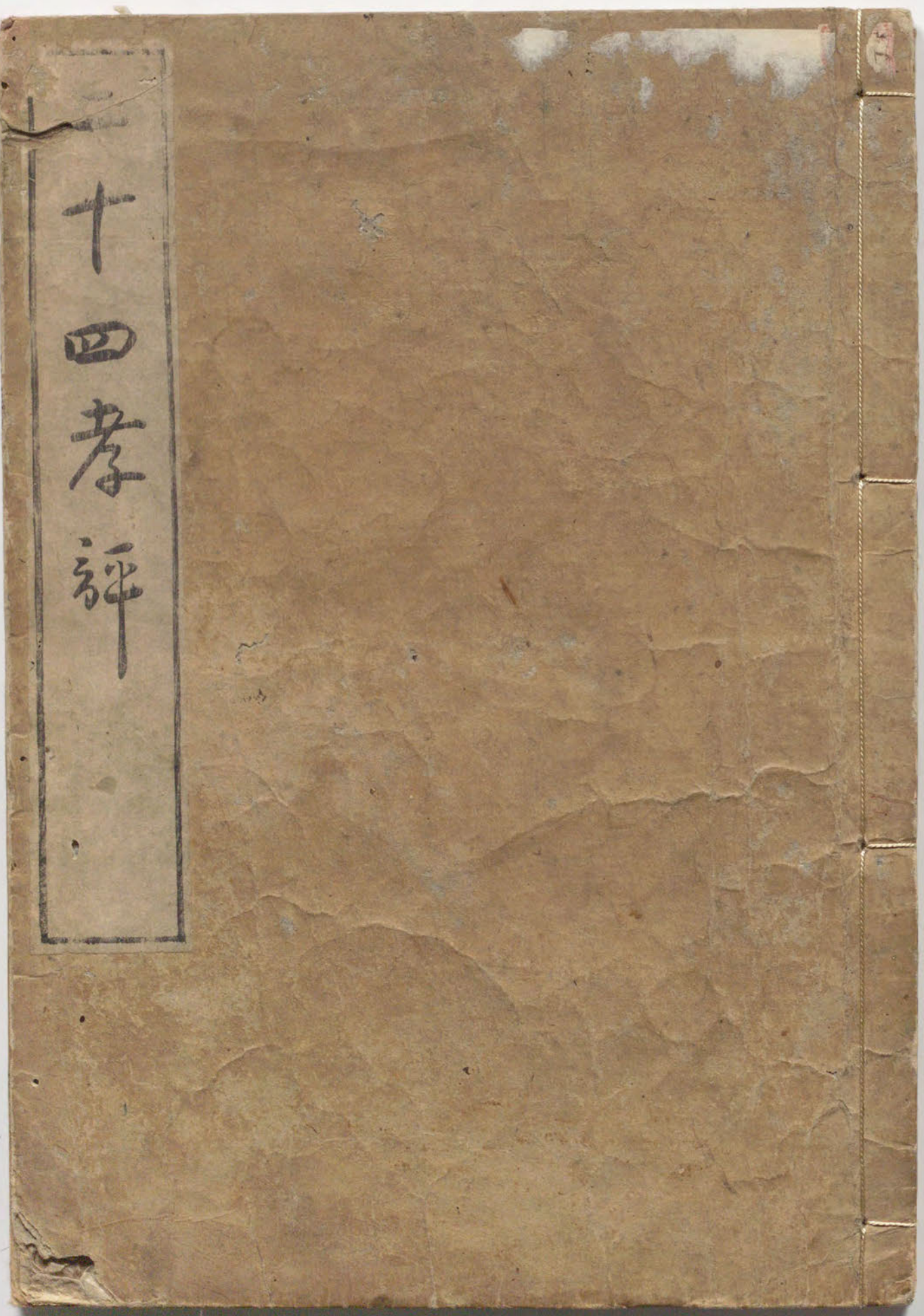
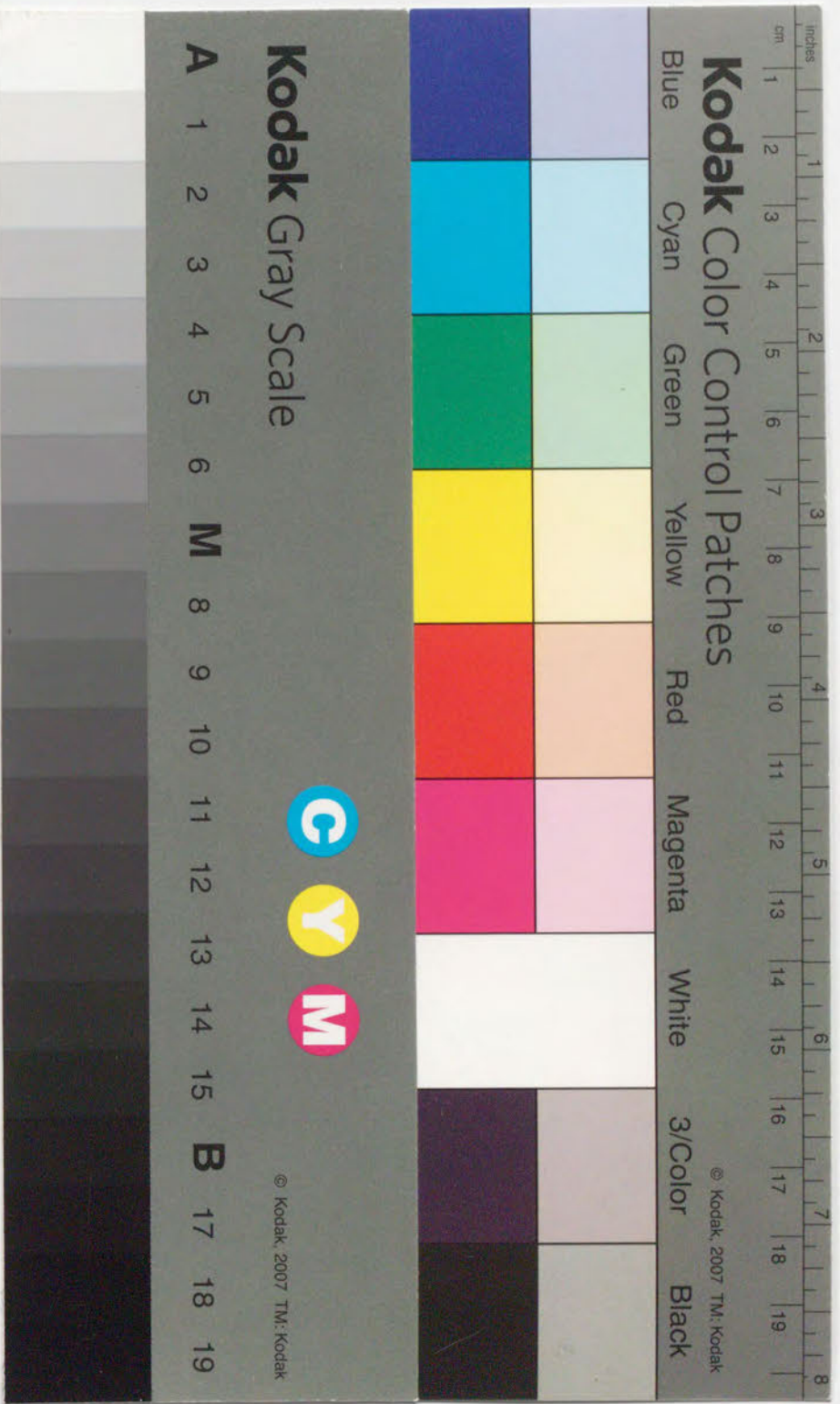




五體千字文 全一冊

此六千字文と真孝行、耕家任沃を加ま
人ハバ有、所、持、ち、た、れ、共、乃、々、入、レ、利、を、得、る、者、ナ、リ
世、ニ、千、字、文、の、中、に、あ、る、と、い、ふ、も、そ、を、お、秘、す、の、の
こ、ま、な、く、千、ノ、門、で、千、ノ、方、こ、う、の、郎、耕、と、な、る、の、の、人

法橋中和

強入
又素
武士野健來
全
一問

此書は子綱法すは海のものよりとて色々
輕公の時代をさへ是等の形状と強妙
と云ふは細學と云ふべき也其書六
よりよりひてそとをみてもあつたべ

手島先生著

童子必續
教訓我守
小才
一冊

けいはいの徳先ずくふふて事業よく示
 孝の乃る主たるなりをたまたまの^て趣^そで
 若くはまゐりてをむくむなりとてするべし

文林節用筆海大全

世俗通用の書れ上中下の習文のふた
種又そのあはき時にやまかきする毎うま
ふと一通の中より通も凡て正五年始ハ
ねの如く翔ハはの如といふはとけあ
既き日用市堂のるたて敷多あ月免
出れりしより文字惟忘の急索ふたうよく
そ外等及の要用ふそふ出れの大令ん

同
小
本
懷中必
用備
一
冊

大改心齊橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門板

二十四孝評序

余幼侍字畧上疎六字及四十字法

汝後之乎曰未也曰尤然郭居家所作

其人事親至孝、左右承順、得其歡心、

乃作詩讀歷世孝子，以便童蒙之誦。

通、蓋聖人之設教、必以方學之志、示

味既其方如何而為之求為此詩也

存乎平之懷。正而讀其詩。何足趨庭。
曰汝後此評乎。曰未也。曰未。蓋沙先生所
撰遺書。陷多疑。而獨闕此評。余所未之
見。不亦惜乎。定環曰。唯。尔後。須及歲內。就寄
江表。將完輯之志。蓋二十餘年矣。未嘗頃刻
忘之。意。每問。我。必。泣。曰。字。露。日。未。可。不。遂
其。願。得。也。是。年。春。而。月。始。得。詣。系。沙。北。小。

路俊之及所傳之文多祖宋人志先生之門
人也故家多藏其書以卒日更讀也因竊
謂世詩俊之書其詩之盡其說未之此評也後
復美之書其書亦不妙記以圖宋丁字反
而讀之評讀其評之通其之其鳴能之宋人
其矣何以得此也同志乎後寫以報於家

君字曼奇之曰先生以元祿奉末學於
 大河、距寬政建成、垂一百年、其書
 之不亡、亦天之就吾來、吾刺之於家
 塾、以傳於吾黨兒輩子也、乞豫禮受
 命——遂以之梓云、

天象をに命し其骨小からしむ父母
力成令と殺さんと云ふけあちつる出入神の
とく帝堯舜一失しと聖徳あることを知り
あふ始に賓客とく中政を命し終り
室位を授けあふ

漢の文帝は高祖の三子也諸侯を封じしきく
代王と号し諸侯其仁賢を乞くむ久く帝位を
さめく生母も高祖の側室也文帝天下を治め
後薄太后と成帝母もつとくお孝へ薄太后病事
三年帝安を忘れと常成得の杯ひを忘れと
いぬと成せば湯藥をうとみられはと免べ

臣

久く志くおとるに仁孝天下はよふ

漢朝は高祖より一帝といふも百年乃基本は
文帝の孝ふ根をり孝をけく乃至安なり
宇宙ありくよりけく日とくくせはと事
なりて地せく乃使これを受く世今といふ万物
これより人といふ五行の精をぬく明德あり
万物はすれあるあかり明德乃感通孝あり
先なるあ

周の曾子名を参字を子輿大賢也孔子道統に
宗なり親あつとくお孝へる時山林へ入るを
中る家より客来より母を思ふと指をく曾子

實

三才要
二
もちまらむ會ひてみぬ母のふれを求ふ事を乞く
いそひ歸りて其故をよ母乃て哀客あり吾指を
かんとあんとせよとん

人之地の中ふ希く一室流通す故に寒暑所ふ
愈々唯然熱乃人室をいそれ瘧疾乃人暑を
不知私欲の一体をなす事と熱病瘧疾の家暑
を通ぜざるうと一況や親子の骨肉をいそげを
いそれ希く一室乃情所ふ切く此故に母指を乞く
子のひひならまら痛免り母子呼吸お通ひ孝子
の情至まり

周の園子名、損字と子騫賢人なりとや母ふれ

より父後事をめりて二子を生れ実子の衣服ふと
綿をいそてりてかふ一損は、芦の花をいそて
さよと若年ありて実なとて一父事をいそむふ
お母の索をわきめり父其成乃かける故をいそ
継母を出さんと損こそをばく哀と云母いそは家
ふよりさむがらんいそるは二子なよりぬをがんと
継母ばく悔ひむ

芦乃種を綿とよると貧者の服へ成人は若者
をを用く事をぬとる一幼女の人其寒より
たふし一丈己につま老乃悪しあられ所を
失ふは元情の悦也園子騫これを恨み継母を

二才のさむかんとを思ひて父乃いかりををてて後ふ
継母の甚を愛しと慈母とて其孝のあれるのみ
那れにてもまた大なり孔の三千乃中より孝子
國子と稱せられし事也

周乃仲由字ハ子路孔門の高弟也家貧しとあるを
なり藜藿乃食を食ひ親あるなりなり郷を出て
百里乃外み米を負つてこひをとり父母乃喜とて
親没しと後南の方楚ふはくに従車百里の粟
を積り萬鍾也襦をまきたり一罍をけり糸と
食ひたりと云親のこえり米を負ふ廉飯を食
せんと思ふともうぬる

子路ハ勇心強力の人と云然れはすれと勇力あるを
多し其強を甲る不垂なる老之然る小子路も其
力故父母乃孝を奉るなりた力のこを人皆天
質乃得るふあり是を人欲の爲は不用と忠
孝れりよふいなる天下に不沽は平なるなり
子路のかきとる万石乃所と云る

漢乃董永ハ家さつたてと貧し父死しと葬つる
物なり富家よ所を賣と錢をかり葬れをいと
以たりかくと主家ふゆきや川ことあるとて途
中よ一婦人小童とありと永の妻と人といひと永
其家よいれり錢を織と文を畢と一月なり

三百匹なりかきし錢をばくのみよ及なり主家おと
ろくくゆきなり帰る時より一見おとすふ至く
婦人永を辞しと云

生母時を所乃いと思ひぬ今親お奉りて喜子
かゝ死する時を所をうせしを親よあけら
く葬をなせり死したふ我身を有とてい
親の相とい至誠天に感ひ神女来と其所を
いさけ方こころれ艱をまぬがれむ神の
不測乃理仙姑と夫婦の事古今董永人
なり

周乃刺子生質篤孝なり父母老く其は眼病あり

麻の乳をばく食さん事を孫より誠よりいふ
然ともこれをばく父母の眼病いゆなりはすは
さうせと残るなりと麻乃皮を衣と深山より
麻のむれりへく麻乳をばく親お供と獵者麻と
思ひくろを取る刺子起く其故を告

麻の皮を衣と麻乳よりする人々遠くてく
阿やまれとも麻道く何ぞまかさんや然とも
孝感の至神を動かひ麻より麻とさげむ
乳をあつて至誠よりたを分別を次小なり
おのんする唐く

後漢乃江革字次翁いとも父老の時父を失ふなり

母とお依まり長はるふ及くまへく孝切にれり
盗ひ母を負く難をのぐる途中盗賊おほし草を
おむちりしそふ人きんとは老母ある事を告ぐは
賊といふも殺ふ志のひびくゆり下邳と云所
よりをきり母子二おなり人乃為日用をせむ
母をきり得る所のものは母乃衣食となりと私
なり

に草灰の難を忘れく母乃より所なるをきくと
をかかき母ふをぬれんと成なぐり其母の子を
ふとらりしと全神乃精神赤子よりく
親の子をよみお腹なれと人皆つと見次く

よめ子の親ははるるる歎成なるが故に孩提の恩
は報する者すなり

後漢乃陸績字公紀年二歳乃と死九は乃袁術は
見ゆ袁術橋を出しと児のふお績橋三枚を懷
中へ得るふ及く拜する時地はおちぬ袁術云陸郎
賓客と成くくおをふとらふとるやと績む
まつひと告ぐ我母の好む物なれと帰く送ると
術大に奇なるをとる

二歳の児とて食するを試みずまて母乃性の
愛する事成思ふかひはあつたれとをさむる
おあつと地はおちぬ人いさむといふおあ

三
如なれば赤面ふなると至誠大人を感せし
天性教をすゝふれを失はるゝとなれとも
れ乃事おそり

唐乃崔山南父の母唐丈人姑ははく至孝の姑
長孫丈人なり年高くと齒なり唐丈人毎日餐を
おさる所をきよえ當ふ外りく其姑は乳をのほ
しむ姑粒食せざる事数年ぬきとも堅固一日長孫
丈人終令の病あり長幼之礼ある時よ言禁り
乃くよえれ恩を報する事なりた子孫乃婦る
人彩婦乃孝故のこくなくんて成彩のみ

老人の姑り乳を飲め姑もまへ辭せし

よえの乳を飲事乃の人情をいれ見れ其ふも
おりかき事之唐丈人姑乃老妻をいふと見
乃く老の食を食かきを見く玉珠乳
飲しむ姑も其仁なり感し辞せ老と
なひ兒となるけいけ姑婦よりまほといふも
可く人情のなるんふあつ

晋乃吳猛年八歳乳ふはく純孝なり家貧
れ其夏の夜といふも蚊をぬくるに帷帳なり
夜蚊おほく肌膚おあひりく膏血をすは猛乳
くこころにいれこれをはり度己をくこころを
乳の所はあつとをきこなり

ふれ常の人を親乃常なるを不中を恨く
なれば其を親にたとへてつゝ其をよとて
救の所をさへて其母乃其をよとて
るし其をよとて其母乃其をよとて
さへて其母乃其をよとて
兄長は事乃容儀を習ふとて其母乃其をよとて
義理は返るなり天性乃其母乃其をよとて
其母乃其をよとて其母乃其をよとて

晋乃王祥字は休徴とて母をうしむるに母朱氏
其母乃其をよとて其母乃其をよとて
母乃其をよとて其母乃其をよとて

り母生莫食を拜するを思ふ時天寒しとて其母乃其をよとて
其母乃其をよとて其母乃其をよとて
其母乃其をよとて其母乃其をよとて

其母乃其をよとて其母乃其をよとて
其母乃其をよとて其母乃其をよとて
其母乃其をよとて其母乃其をよとて

母の行育もこころひすれおとろく後人何と思ふ
さるや

後漢乃郭巨^{クワキ}と貧者也三歳孩^{カイセウ}笑乃見あり巨母
此孫を愛しくまうの食をうちふ郭巨妻は
告く么貧乏なれと母は供養するゆふふかき
子又母の食を減ふけ子を埋^{ウツ}せよとて坑を
掘る三尺ふなり英令一釜を得り上に祀ると
天賜孝子郭巨奉^{タマフ}終奪^{ウツ}事あつては民取と成
りし

祖父母乃孫を愛しく食をうちるのゆへに
といふと幼なる時と父母をこころひ長くとし妻

子をもす父母哉思ふゆひとて一志あり
郭巨と親の孝は害あるゆふ二歳の児を去
埋んと欲幼女時父母をこころひと天下りふ
母も物なれ乃心を不失妻又同むは使ふと
こむる天下け夫婦乃こねて天もた今又
なまなまものあり金ハ量の名ふ斗は并なり

晋乃楊香^{ヤウカウ}年十四歳のと父はあつてひと田おち
父の豊稔^{ホウレン}を獲れい香これをかこむる力は庶
しく父乃身を助く時小虎出来と父を取と喪
去楊香幼弱かしく又母に泣きあつてといふた
父あるゆへに父あるゆをあらはをこころひ

すみ双ふふく虎の爪を搔る虎もお目へは豊をすく
香成をぬきと去父子たは害をまぬくれり
楊香ううれよもたふをさううづれと虎も勇
猛をすれく去者感天地神明を動すた今武勇
のなまれある人といふも或る勇力をこの武利
刀を矢成たのて或る謀をこの武成身方を
たのたむと揚香いさくとその命をた事とを
至愛よ出する大勇に仁者ら必勇なりとまこと
なほく邪

宋乃朱壽昌ハ妾乃子なり父の心室を母との七歳
のとき心室朱昌の母を化方にし嫁いおふこと

五十年と神宗帝乃時は宦禄をすく秦乃地は入く
生母劉氏を尋ぬ母成えいむと評とちう終は或る成
けりり母の年七十餘と

朱壽昌も我朝のいり一なりは公家乃と一武
家の代はも族来れまなくか月一家人をほく
うり終くやまるといふ人もるに海一うりう家禄
を去く尋ぬるの至情世人これをかうと成

南齊乃庾黔婁はくく辱陵を治令と宋と
いふと十日なりするは父の病を治るは日俄り心
驚く所行をなかく宦成すくすみやふ家より心
醫乃云病の輕きを去くと思ひく冀を貴く告る

可^レ之^レ黠妻^ニこれ^ヲを^リ免^レと^テ稱^スし^テ公^トを^リ免^レは^シて憂^フく^レ所^ヲを
以^テく^レか^ニん^ニを^リい^フの^ニ父^ノ終^ニ死^スし^テり

を方々く病を告る者いまいしとてふふを
父乃病の発後を知る奉行職を辞し官禄を
する事あきつるごとくのかくしとすみや
古々小滞まり糞をる死にかなんとおもふ
公乃至り人情乃と受する如也

周乃老萊子ラウイら至孝の國クニあり二親フタサレを奉養する事
其母カシ喪サウをさしむ行年七十歳なりとく老を爲なすべ
父母フツモ乃ハ在り爲なるなりある時ハ所トコロは五色イロノカラぬを穿スリ
たる心を着キし嬰兒オビゴの如ごとくむきを穿スリ乃ハかくんずは

なまありあるとたゞいりたりとつまはさきとれと嬰^{エイ}の^ジ
啼^{ナキ}をなげ双^{サウ}親^イ口をむくおくあふ春風彩衣を動く
喜色門内ふみとあり

老萊子と父母を時と言ふ。祢光乃れを學ぶのふ
あはれ双親子の老を見くむは感慨おらん事を
思ふに及ぶ五色の衣を更乃戲をなせり是二日乃
ね言ふ此す平生父母を孝ふ事三歳の時に異
なるに父母のふるをも又孩提乃せうを改す
大新乃人情ハ親は向くハ貞心恭敬乃象あり
妻子朋友あはれをせうむとて老萊子と
常人は異なり父母小順なる者なり

後漢乃蔡順字君仲幼少乃時父を失ひて孤となふ
むより母を侍るに至る時王莽の乱は甚なり年も
又凶荒なれど母を侍るに乏しき物あり桑乃実刈る
か器をとひてこれを二層赤眉の賊見と怪く
其故を問順云是き物ハ母を奉るに乏き物ハ是
食ハ賊其者をあはれとて白米二斗牛蹄一隻以て
桑乃實の置きとての味耳く未き物ハ味酸
と云ふこととて至味を母に供は全
の精神狀乃とありと云う味を好むとを
は一事よわく他は常以て誠とてとも母あり
妻子あり孝慈ふりてこれとて一奉む乃

矣見亡母事なり故は其誠を感ひ有乃の代は是れ
と云ふをいふ事なり孝者ハ人の中人の質ハ習成
性といふ後人何ぞ思ふことんや

後漢乃黃香字文彊年九歳乃とき母を失ふ思慕リ、
やまの里人其孝を称ひ又は事く至孝之甚天炎暑
の夕よ父乃枕とむりてを扇涼く冬月寒天乃
夜小を火をとりて志す所の床をあてむ其代乃
つと人を可なり太守劉護奇なりとて其孝を
と云

九歳乃童子躬勤苦を執く子なるに職を
と成る教學せし人唐小北は母を念く父を痛

知りけり日あてび得ず親りてあつた孝子、日を
愛ひ唯け孝事従容とて礼かつた天質の美
なり

後漢乃姜詩母小事と至孝之妻乃龐氏姑小奉す
と恭謹なり母好く江水を飲めり龐氏出と走く江
中乃水を汲く姑ますむ勸勞をたからけり頃
從す又羹の膾を嗜せり姜詩常み生羹を求め膾
母作母あて隣母をたて共食以舎乃くをふ
忽耳泉出味江水のと一日は双鯉躍る

姜詩とつる母小孝なるのなるる妻小も仁り
と誠ありけりなりよと夫乃志小まてつる母小

孝之丈婦家業を勤く衣食をなひと貧なりと
いとまなだれ然る遠く江水汲生羹を求む母
歳なりとをなだれとなる母隣母あてをよひと
くをとりなりとみと子婦乃骨をかり見ひ丈婦
ともふいとふなり母のたのこを収とて至誠天地を
うこかへ水鯉魚屋乃かともふ生けた今い丈
婦のとなり

魏乃王褒字、偉元親小事と純孝之母ね日雷声を
怖る既ふ没くと山林乃回小葬る雷声をきくと小疾風
猛雨ととも墓所小到くとね跪け泣く告ぐと哀
らにありおそ居る事なかれと其公母を死せりとせ

父ハ司馬昭シバセウガ子コ小殺コトコロスする後晋天下を一統イツと王オウ終身シウシン西向セイキウと座ザと次晋小侯コウとて子の義ギ人
 震シンと乾坤乃長男之春暮の時を得と声を棄
 以これを雷ライと人々雷ライを軍とて血流通ケツリツウ
 病涕ビョウテイを消シユ以万物マンブツの雷ライをよぶ川カハと沉湮チンインを教ケウ
 と長盛チヤウセイの雷ライより始ハジメるものと云ふ五穀豊年
 なり以是コレを化ケをかし此理コノリを人々も電デン以モ
 一イツと悔クワイるなり王偉ワイ元母ゲンボの悔クワイるなり乃
 理リをさとる悔クワイる教ケウもささるなり不可イカ知チ者
 公コウ死シを備ヒふなり

漢乃丁蘭テイラン幼女コウメれとき父母共キに失ウセと孤コに奉養ホウヤウする

とを以モてされ父母の家カに生ナれしと勸キョウ勞ロウせし孝女コウメ思シふ
 りまはしく切キ之思慕シボあり余ヨリも二親ニシンの像ゾウをさし以モて
 これを事母コノハハとすなり如カく其妻ヒサメ之ノて不敬フケイなり
 ぬくむき針ハリを以モてその指ササをさせ血ケチなれ出
 本像ホンゾウ蘭ランを見ミて眼中ヤウチュウ涙ナミなり榮エイ其實コノミヤコトを悉シツく
 妻メケを去サ

丁蘭テイラン懷イハヒ哺ボ育イクの恩オンを報ウラガヒせざる事コト成ナリ恨ウラミ二親ニシン
 乃本像ホンゾウを堂上ドウジョウに列ツケて朝夕タウシツする親シンの奉養ホウヤウを
 なせり本像ホンゾウを主ヌシとて之ノを終ハシメる家カ主シユの
 症シメ小コなり蘭ランも本像ホンゾウするの成ナリ忘れワスレて生ナり
 事母コノハハかき妻メケも本を以モて見ミるなり故ユヘふこと

ひれをなぐを像、枯る木なれとも、蘭う孝の
生る小たぐも、灰ゆゑ生る人の意あり、信の帰する
不ふと神よれり

晋乃孟宗字、恭武、いとけなれ、不ふ父ふを、
孤之母老と疾篤し、冬月、筆れ、河川物を食を乞
を教ふ人、力乃及、筆れふあ、されも、竹林小往く、竹
枝抱く泣、孝天地を感し、須臾、小地裂く、竹の子
救茎出たり、持し、か、のく、河川をのき、なうと、母ふ、奉
食し、か、なりと疾愈

天の物をなぐ春生し、夏長し、秋収、冬蔵、
冬の閉、乃、時ふ、常りく、盛、甚、四五月の筆を

思ふとも、い、く、得、筆、乃、宗、乃、意、ふ、先、乃、旨、
こひ、親、乃、教、と、と、ま、つ、か、且、原、と、云、り、なり、筆、乃
以、筆、死、以、へ、く、さ、る、を、と、う、得、ふ、いと、悔、ふ、く、毎、
く、竹、林、ふ、ゆ、嚴、寒、は、筆、生、し、孝、感、の、神、物
と、ま、茶、と、な、れ、り、神、明、不、測、乃、理、也

宋乃黄廷堅山谷と号し、元祐中、小を、史、乃、官、と、な、
篤、孝、なり、所、需、費、な、れ、とも、母、ふ、泣、く、と、筆、を、畫
と、り、毎、夕、母、の、溺、器、を、洗、ひ、婢、妾、の、る、成、と、つ、く、成
せ、り、榮、顯、を、以、て、孝、性、成、移、さ、る

その人、卑、賤、の、る、小、習、者、を、士、君子、れ、業、を、な、く
か、く、一、所、需、費、な、る、人、を、小、人、の、口、を、を、洗、く、

世に其子なりとぬと成りて其子老を徳に山谷
而貴なりとに其子多といとも老母は事く三
う至情を盡し天性乃徳なりと勉強のかぶ
ところふあり

大舜と性命の父母小事なり大孝とする者なり
父母乃舜を教ふとする者其本心小に象
教へ得たりと成りて其子老を徳に山谷
生くおるなりを見くふ小なり其子老を徳に山谷
いひて過成文り愚成擲ふ悪人乃常態なり
志れといひて一難乃其子老を徳に山谷

舜の義を知りて故に舜其子老を徳に山谷
なり多し自己二國乃天理なりと一毫の私
己なり故に其性命を父母より一子より後
来乃其惡成なりと其子老を徳に山谷
をあるなり其子老を徳に山谷
舜身を脩め善を行く父母を敬ふ
あり小恥あり其子老を徳に山谷
云舜何とありと父母を敬ふ惡成なりとあれを
おす其子老を徳に山谷
事を止めんとやと然り其子老を徳に山谷
化するなりと父母乃其子老を徳に山谷

